

キク白さび病に対する感受性の低い小ギク品種の選定			
[要約] 小ギク「精ことひら」、「精はんな」、「精あかり」、「風船」、「精やすらぎ」、「精はやま」は、無防除の露地栽培試験においてキク白さび病の発病が少ない。これらの品種は、栽培地の異なる圃場から採取した菌に対しても感受性が低い。			
茨城県農業総合センター園芸研究所	平成29年度	成果区分	技術情報

### 1. 背景・ねらい

県内小ギク産地で多発するキク白さび病は、発病に品種間差が認められる。本試験では、現地で栽培されている小ギク品種・系統について、白さび病に対する感受性の差異を明らかにするとともに、県内主要産地から採取した菌に対しての感受性を検定する。

### 2. 成果の内容・特徴

- 1) 無防除の露地圃場試験による自然発病条件下では、「精ことひら」、「精はんな」、「玉姫」、「精あかり」、「風船」、「精やすらぎ」、「精はやま」の発病が低い（表1）。
- 2) 現地3産地から採取した菌を接種すると、「精ことひら」、「精はんな」、「はじめ」、「精あかり」、「風船」、「精やすらぎ」、「精はやま」は発病しないか、発病しにくい（表2）。
- 3) 「玉姫」は、菌の採取地により発病度が異なる（表2）。

### 3. 成果の活用面・留意点

- 1) 本成果は、夏秋小ギクを延べ64品種・系統を供試し、選定した結果である。
- 2) 同一品種における発病程度は、年度及び出荷作型により変動する。

#### 4. 具体的データ

表1 キク白さび病に対する感受性の品種間差（露地圃場試験）

出荷作型	品種名	発病度 <sup>1)</sup>	
		H27 調査	H28 調査
7月	玉姫	0.3	7.1
	はじめ	0.4	49.3
	ほたる	5.3	—
	雪舟	14.1	58.2
	精ことひら	—	0
	精はんな	—	0
	精こまき	—	29.7
	精ちぐさ	—	53.1
8月	玉姫	4.0	—
	はじめ	16.3	40.5
	常陸サマールージュ	27.8	—
	常陸サマースター	30.5	—
	常陸サマールビー	46.7	—
	ほたる	58.4	—
	糸子	73.5	—
	常陸サマーシルキー	75.8	—
	すばる	81.3	100
	精あかり	—	0.7
9月	風船	0.03	—
	しずか	29.2	—
	あずさ	32.8	—
	常陸オータムレモン	39.7	—
	ほたる	44.3	—
	精やすらぎ	—	1.0
	精はやま	—	2.1
	精ひこね	—	87.4

注) 殺菌剤無使用で管理した。

<sup>1)</sup> 発病度 =  $\{(4A+3B+2C+D) / 4 \times \text{調査葉数}\} \times 100$ 。A:病斑が21個以上、  
B:病斑が11~21個、C:病斑が2~10個、D:病斑が1個。

表2 採取地を異にするキク白さび病菌と小ギクの発病度（接種試験）

品種名	白さび病菌の採取地		
	笠間市随分附	龍ヶ崎市大塚	筑西市樋口
精ことひら	0	0	0
精はんな	0	0	0
はじめ	3.3	0	0
精あかり	0.3	0	0
風船	0	0.7	0
精やすらぎ	0	0.4	0
精はやま	0	0	0
玉姫	20.2	1.4	0
すばる	29.9	18.5	27.9

注) 接種は挿し芽28日目の苗に対して行った。苗の頭上に罹病葉を展開し、多湿に保った20℃の恒温室内に24時間静置して感染させた後、屋外の遮光した無加温ガラス室内で管理し、接種19日後の平成29年5月15日に発病を調査した。

注) 発病度の算出方法は表1と同じ。

#### 5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

キク白さび病の多発要因の解明と効果的な防除法の確立・平成27~平成29年度・花き研究室・病虫研究室